福井の幕末明治 歴史秘話 ⑭

西郷隆盛が信じ頼りにした男、由利公正

NHK大河ドラマ「西郷どん」の主人公、西郷隆盛。この西郷からの信認が厚かった福井の先人が由利公正です。

由利公正肖像（東京府知事時代）
（三岡丈夫『由利公正伝』より）

西郷は、安政5（1858）年から橋本左内と将軍継嗣問題に奔走しました。由利（当時29歳）は、同年4月、左内とともに江戸へ行き、左内を補佐する役目で一橋慶喜擁立運動に加わっています。その後、井伊直弼が大老に就任し、徳川慶福が将軍に決定。安政の大獄が始まりました。西郷は、同年9月まで、薩摩藩士、有馬新七や諸藩有志と井伊の排斥（暗殺）を計画。有馬の著した『都日記』によれば、左内と由利が参画し、由利は仲間の水戸藩士を福井藩下屋敷の天井裏に隠し有馬との連絡役を務めました。しかし、危険を察知した福井藩は、同年10月由利を福井に送還します。

その後、由利は福井で藩財政の再建を実現し、坂本龍馬の推挙を得て明治新政府の財政担当の参与（現在の財務大臣に相当）となります。由利は手腕を発揮。西郷が成し遂げた江戸城無血開城までの戦費は、由利が京都や大阪の商人にその趣旨を説明し集めた20万両で賄われました。また、由利の発案した日本初の全国共通紙幣「太政官札」が発行されると、西郷は戦地で、「太政官札の発行は朝廷の命令によるものだから、その支払いに不平を言う者がいたら切って捨てよ。」と部下に命令したといわれています。戊辰戦争の西郷の進駐を支えたのは、由利だったのです。

太政官札発行後、療養のため福井に戻っていた由利は、明治4（1871）年、再び政府に呼び戻されます。由利を民部卿か大蔵卿に充てるという人事案もありましたが、由利の政敵、大隈重信を推す伊藤博文、井上馨らの意向を踏まえた大久保利通の意見が通り、7月、由利は東京府知事となります。西郷は、同月、府知事就任決定後に、由利の大蔵卿就任にあえてこだわる内容の書簡を大久保に送っており、由利の能力を高く買っていたことが知られています。

また、こんな逸話もあります。明治4年、新政府が新たな兌換紙幣を発行したものの、流通せず金融が閉塞状態となりました。西郷は、府知事の由利に「府庁で対策を講じてほしい。すべて（由利に）任せる。」と命じます。由利は、西郷より「任せる以上は口を出させない。」と担保を取り、対策に乗り出しました。府庁で率先して購入し、価格調整（安定化）することで、新札の通用に道を開きました。

由利のよき理解者として、その能力を高く評価していた西郷。二人の結びつきは、将軍継嗣問題に始まり、明治初期の財政危機を乗り切った「由利財政」を通じて強くなっていったのです。

関連史料・ゆかりの地

煉瓦銀座之碑

煉瓦銀座之碑（左）

明治4（1871）年に東京府知事となった由利公正。翌年の銀座大火を機に都市の不燃化に取り組み、銀座煉瓦街が建設されました。昭和31(1956)年、煉瓦が発掘されたのを機に煉瓦の碑が建てられ、由利の名は今も銀座の地に刻まれています。

【住所】 東京都中央区銀座1－11－2（地下鉄銀座線京橋駅より徒歩２分）

参考資料等　三岡丈夫編『由利公正伝』光融館

発行／福井県観光営業部ブランド営業課